

国際学術交流

■ 韓国・徳島大学薬学部交流シンポジウム



薬物治療学分野 准教授

山崎 尚志

Naoshi Yamazaki

平成27年2月4日に韓国薬学生との交流シンポジウムが開催されました。韓国学生は大韓薬剤師会主催の「Pharm Young Leader Academy (PYLA)」で大塚賞（大塚製薬株式会社からの表彰）に選ばれた10名で、大塚製薬の研究所などを見学する目的で来日しました。大塚製薬

から徳島大学薬学部学生との交流会をご提案いただき、本会を開催する運びとなりました。

まず、蔵本キャンパス藤井節郎記念医科学センターにて、徳大から佐藤先生（医薬品情報学）、梨花女子大学からキムさんがそれぞれの国の薬学生進路状況について説明しました。続いて「将来志望を実現するためにやるべきことは何か」というテーマで3名ずつの学生が発表を行いました。徳大側は博士課程の原矢さん（製剤設計薬学）、辻さん（機能分子合成薬学）、山本さん（医薬品情報学）が研究内容と将来の目標について発表しました。パネルディスカッションでは韓国学生が徳大側の発表内容に対して積極的に質問していたことが印象的でした。薬学部スタジオプラザでの交流会では、参加者が全員20才以上ということもあ

り、大高学部長のご希望でアルコールありのパーティーとなりました。大いに盛り上がり、伝え聞いた話では韓国学生の帰りの送迎バスに乗り込み、アルコール対決延長戦に挑んだ徳大学生もいたそうです。

シンポジウムには120名、交流会には60名もの徳大学生が参加しました。韓国学生の積極的な姿勢を見て大いに刺激を受けていたようで、大変有意義な交流シンポジウムとなりました。このような貴重な機会を与えて下さいました大塚製薬の鳥山様、浜本様、通訳を担当して下さいましたパク様、また薬学部長大高先生、司会進行を担当して下さいました竹内先生（薬品分析学）、準備等でご尽力・ご支援いただきました薬学部総務課の皆様感謝いたします。

■ 東國大学校薬学大学との学術交流



製剤分子設計学分野 教授 分子創薬化学分野 助教

斎藤博幸 中尾允泰

Hiroyuki Saito Michiyasu Nakao

平成26年12月1日（月）から3日（水）の3日間、韓国の東國大学校薬学大学（College of Pharmacy, Dongguk University）に斎藤博幸教授と中尾が訪問しました。平成24年12月に同大学との間で学術交流協定が締結されてから、毎年教員が訪問して学術セミナーを行うといった交流が続いています。我々が訪問した12月

初め、韓国は氷点下の厳しい寒さとなりましたが、Jungsook Cho 学部長をはじめ薬学部の教員の方々が温かく迎えて下さりました。東國大学校はソウル市とコヤン市に二つのキャンパスを持っており、セミナー当日の午前は同年9月に徳島大学薬学部を来訪された Hee-Chul Ahn 先生にソウルキャンパスを案内していただきました。キャンパスの広さや設備の充実さが大変印象的でした。午後からは薬学部のあるコヤンキャンパスに移り学術セミナーを行いました。多くの教職員と学生が参加しており、セミナーに加えて教員の方とのディスカッションを通して、自身の見識を広げる非常に有意義な3日間となりました。

これまで徳島大学からは教授や准教授の先生を中心に訪問しておりましたが、今回斎藤教授と共に中尾が訪問させていただいたことで、両部局間での

若い教員や学生による学術交流が今後益々活発になることを期待しています。



学部長室にて先生方と



学術セミナーを終えて